

2010 年度前期自治委員会総会決議

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会中央執行委員会

1. はじめに

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会（以下、学生自治会）では、意見箱の設置や各種アンケートの実施を通じて、学生からの意見収集に努めています。それは、自治会活動が学生の意見があつてこそ成り立つものだからです。多くの意見が集まることで自治会活動が充実し、ひいてはよりよい学生生活の実現へと繋がります。みなさんの学生生活をよりよくするためにも、意見を発してください。私たちの学生生活を私たちの手でよりよくするために、ぜひ共に活動を行っていきましょう。

2. 活動報告・活動方針

学生自治会は、2009 年度後期自治委員会総会から現在に至るまで "**これまでの活動**" で示す活動を行ってきました。また、2010 年度後期自治委員会総会に至るまで "**これからの活動**" で示す活動を行っていきます。

【要望書交渉に関する活動】

・ **これまでの活動**

学生自治会は全学生の総意として要望を大学に訴えるために、例年要望書交渉という活動を行っています。全学生を対象に 10 月上旬から 11 月下旬にかけて実施したアンケートを通じて、学生が日頃から抱えている要望を集め、それらの要望でも特に切実なものをまとめ要望書を作成しました。そして、1 月 13 日（水）に大学との交渉を行い、要望書の内容を学生の総意として大学に訴えました。交渉の場には、学生センター長である寺迫正廣副学長や学生センターの職員の方々に出席してもらい、学費の現額維持や図書館の開館時間延長などの要望を訴えました。なお、アンケートで寄せられたものの要望書に掲載しなかった要望も学生の実情を表しています。これらの意見も大学運営の参考にしてもらうために、アンケートに寄せられた全ての意見を掲載した意見集を作成し、大学に提出しました。要望書交渉の結果、学費は現額を維持、また図書館は開館時刻を平日 21 時、休日 17 時まで延長、などのように多くの要望が実現しました。

また、学生が大学の実情を知る機会は少なく、学生の要望はどうしても一方的なものになりがちです。しかし、要望を一方的に訴えるだけでなく、大学の実情や考えを考慮した要望を訴えることで、要望がより実現に近づくと学生自治会は考えました。そこで、大学の実情や考えを学生も知ることができるよう、大学による要望書に対する回答は公開形式で行ってきました。その際、回答に疑問が残る、または納得できない場合には、その場で学生から直接質問できるようにしてきました。2009 年度の公開回答は 5 月 21 日（金）に行い、寺迫正廣副学長を始め、その他の理事や各課の方々に出席してもらいました。公開回答では、大学の回答に対して参加者から多くの意見・質問があり、とても有意義なものとなりました。しかし、学生自治会役員意識不足により情報宣伝活動を上手く行うことができず、学生の参加者数は 42 人と非常に少ない結果となりました。

なお、公開回答に参加できなかった学生にも大学による回答の内容を伝えるために、『NASCA vol. 22』に大学の回答を掲載し、全学生を対象に配布しました。また当日の質疑応答の内容は、学生自治会のホームページに掲載しました。

・これからの活動

「学生は学生自身に関することについて自主的かつ主体的に協議・意思決定・実施すべき」という学生自治の観点からすれば、学生生活をよりよくするために、学生が日頃から抱えている要望を大学へ伝える事は、欠かすことはできません。しかし、学生のエゴと捉えられる要望や、その人の学生生活がかかっているような切実な要望など、学生が抱く要望は人によって多様です。そこで学生自治会が学生の代表として、アンケートで得られた真に切実な要望を要望書という形でまとめ、学生の総意として大学に伝える事で、大学は優先して実現させるべき要望が分かり、要望の実現がより現実的なものになります。そうやって学生の要望が実現されていく事で、よりよい学生生活が実現することができると学生自治会は考えます。

しかし現状として、要望アンケートの回収枚数は年々減少の一途をたどっています。この原因として、本学が十分に学生の要望を満たしている大学になっている、あるいは学生が大学・学生自治会の活動に興味をなくしつつあることが予想されます。しかし、例年の要望書で大学に訴えている学生の要望が十分に実現されていないことを考慮すると、前者であるとは言いがたく、後者のような状況にあると考えられます。そこで、学生自治会は学生が日頃から抱えている要望を十分に集めきれていないと考えます。学生にとってよりよい大学生活が実現されるためにも、1つでも多く学生の多様な要望を集めることは、とても重要です。そこで、今年度も要望アンケートを実施し学生から要望を集め、大学と要望書交渉を行います。またその際、要望書をより説得力のあるものにするために、その要望に関する調査や要望アンケートの実施結果を掲載した要望書資料を作成し、要望書と合わせて大学へ提出します。

また、授業料に関する事項やその減免制度に関する事項は、全学生の学生生活に共通して関係のある話題であるため、りんくうキャンパスや羽曳野キャンパスでも要望アンケートを実施します。そのため、羽曳野キャンパス学生自治会にアンケート実施の協力要請を行います。

上述したように、現在学生の関心が低下していることにより要望アンケートの回収枚数が年々減少しています。学生が関心を持つことができ、より多くの学生から多様な要望を集められるようにするために、学生が大学や学生自治会の活動に興味を持ち、それについて考えることのできる機会・環境作りや、学生が回答しやすいアンケートの作成、アンケートの回収方法や実施方法の再検討、要望アンケート実施の周知徹底を行い現状の改善に努めます。

【大学改革に関する活動】

・これまでの活動

大学は昨年(2019年)の12月に学部再編をはじめとする大学改革案(以下、改革案)を公表し、大阪府に提出しました。学生自治会では、この改革案は大学が大阪府に早急に提出するために、全学の意見を十分に反映することなく拙速に作成したものであると考えました。また、改革に関して学生への説明がなされないままに進展しているため、学生に対して改革に関して周知し、また学生の意見を調査する必要性がありました。そこで、12月に改革案の内容をまとめた冊子、『ご存知ですか？府大改革』を作成し、学生に配布すると共に、改革案に関するアンケートを実施し、その結果174枚のアンケートを回収しました。アンケートには「理系特化型になって府大の理系のレベルがさらに上がったと思う」というように改革に肯定的な回答も寄せられましたが、「自分の学問への想いが否定されたと思えないう。大学として無責任すぎる」といった意見をはじめ改革に否定的な回答が多く寄せられました。しかし、アンケートの回収枚数が174枚と少ないことから分かる通り、必ずしも学生の改革に対する関心が高いとは言えません。そこで、まずは改革に関する学生の関心を高めることが重要だと考えました。なお、12月21日(月)に奥野学長による改革案に関する説明会が開催され、多くの学生や教職員の方々が参加しました。

大学は改革案を大阪府に提出した後、奥野学長が本部長を務める大学改革推進本部(以下、推進本部)を12月15日(火)に設置し、具体的な内容を検討してきました。学生自治会は、改革は全学で議論すべき問題であると考え、推進本部での議論内容の公開を求めましたが、議論の内容が流動的であるとの理由により公開されずに議論が進められてきました。その後、5月に改革に関する文部科学省申請を控えていたため、改革の具体的な内容が決定していたと考え再び公開を強く求めましたが、未だに流動的なため公開されませんでした。そこで、少しでも改革に関して詳細を明らかにするために、奥野学長に会見を申し込み、改革に関する質問を行いました。学生自治会は会見の内容を踏まえ、今後の活動を検討していきます。

また、旧府立系4大学の卒業生有志が結成した「大阪府立大学問題を考える会」が、改革に関するシンポジウム「府立大『改革』はこれでいいの？」を2月27日(土)に開催し、学生自治会委員長の田村がパネリストとして参加しました。また、大阪府大学教職員組合(以下、府大教)と月に1度行っている話し合いにおいて、改革に関して学生や教職員がそれぞれの立場から、意見を発言し合う場が必要であるとの考えで合意しました。そこで、5月28日(金)の友好祭本祭典初日にシンポジウム「府大改革に望むこと」を開催しました。これらのシンポジウムを通じて、改革に関する知識を深め、学生や教職員をはじめとする様々な方と意見を交換することができました。

・これからの活動

学生自治会が昨年12月に学生を対象に実施したアンケートでは、改革の学部再編に関して反対の意見が多く、その中には「文系の学問を専門的に学べる方がいい」、「総合大学だからこの大学に入った」といった意見が多数寄せられました。また、現状として近年の多くの大学が少子化時代を迎えるにあたって、総合大学化・新学部の設置を行い自大学のブランド価値を高めようという大きな流れがあります。学生自治会は、このように本学の学生の声や受験生目線での意見を軽視し、また時代の流れの中であえて理系を中心にした大学へ再編するという、時代に逆行している改革方針に疑問を抱いています。また学生自治会は、学部再編によって設置される文理融合型の学域「現代システム科学域」は、文系の専門的な学問や自然科学の原理を追究する学問がはっきりと大学に存在することで、教える・研究する学問としてその厚みが増し、存在価値が高まると考えます。そこで学生自治会は、これらを総合的に考慮した結果、この改革の中の学部再編によって実質的に解体・消滅するとされる3学部（経済学部・人間社会学部・理学部）の現在の機能を可能な限りそのままの形で移行することによって、文理融合の学域として設置される現代システム科学域の存在価値を高め、その研究・教育の質を高めることがこの大学を強くする策の1つだと考えるに至りました。今後、この方針を大学に強く訴えていきます。

また、これまで大学側はこの改革に関して、「“大学の重要な構成員”として学生が大学自治へ参加できる」という世界的に支持されている原則を軽視し、メールで意見を募っているものの学生の意見を聞くことに積極的ではありません。また、全学生対象の説明会はそれぞれ改革案が公表された直後に開かれました。その後は、改革についてより具体的な指針などが公表されたにもかかわらず、大学は説明会を開いていません。そういった学生に対する説明の機会は、何か改革に関して事態が進んだことを公表した場合、それに対する説明責任を果たし、意見を募るために開かれるべきです。このように学生の十分な理解が得られないまま改革を進め、学生がこの話題の議論をする対象として対等に見られていない節が依然としてあります。また、学生目線の意見が反映されていくことで、将来本学を受験しようとしている学生からみても魅力的な大学になることができ、大学としての存在価値を高めることが可能です。以上のような理由で、これからはより一層大学に対して、学長やこの改革に関わる方々との直接対話ができる説明会や意見交換会といったオープンな場で学生の声を積極的に聞き、その中で出てきた有意義な意見は改革の計画の中に取り入れるように働きかけ、学生の考えがこの改革に反映されるよう努めます。

そして学生自治会はこの改革について、学生がどのように考えているのかをアンケートやホームページの掲示板などで継続的に情報収集し、それに加えて、その時の改革の進展状況を考慮し活動することでより多くの学生が望む改革の形を提言していきます。また、この急速に進む改革に関わる、大学や学生を取り巻く状況は常に変化しています。そこで学生自治会は、府大教との連携を含め、大阪府や大学のホームページ、その他様々な手段を使って改革に関する最新の情報を入手するよう努めます。そして、学生に関係のある重要事項はホームページですぐに学生へ情報が伝わるようにします。

【りんくうキャンパス移転に関する活動】

・これまでの活動

りんくうキャンパスと中百舌鳥キャンパスでは学生の置かれている状況が異なっています。そのため、りんくうキャンパスでの学生生活をよりよくするには、りんくうキャンパスの現状を把握した上で活動を行うことが必要です。そこで学生自治会は、りんくうキャンパス学生会（以下、学生会）との話し合いを通じて、りんくうキャンパスの現状を把握するなど、りんくうキャンパスでの活動を行うための情報収集を進めてきました。

また、より多くの学生から移転によって受けた影響を訊くために、特に課外活動に関するアンケートを実施しました。アンケートを6月上旬にりんくうキャンパスの学生を対象に実施し、その結果57枚のアンケートを回収しました。

・これからの活動

りんくうキャンパスへの移転からちょうど1年経ったことから、実際に移転した事で新たに出てきた意見や要望があると学生自治会は考えます。そのため、今後も引き続き定期的にアンケートを実施し、りんくうキャンパスでどういった活動が有益なのかを検討します。また、これまでと同様、学生会との話し合いを行い、学生会への協力を検討するとともに、学生自治会がりんくうキャンパスで活動を行うための情報収集を引き続き行います。しかし、学生会は人員不足が顕著で、今後の継続的な活動が非常に困難な状況です。そのような現状を踏まえて、情報収集活動の中で得られた意見や、今後のりんくうキャンパスの状況を考慮して、これからりんくうキャンパスで、学生会の立て直しを図りきめの細かい活動ができるようにするのが望ましいか、人手のある学生自治会が主体となって活動を行うのが望ましいのかを判断し、今後の学生自治会のりんくうキャンパスでの活動方針を決定します。

また、“これまでの活動”に示したように、6月上旬に課外活動に関するアンケートを行いました。アンケート結果には「りんくうで活動しているサークルに所属しているが、大学からの援助がもらえないために設備使用費で苦勞している」といった意見や、「中百舌鳥キャンパスのクラブに所属しているが、りんくうキャンパスから中百舌鳥キャンパスへの交通費が負担になっているので大学から交通費を支給してほしい」などの意見がありました。この意見を踏まえて、りんくうキャンパスで学ぶ学生の課外活動が充実するような活動を検討していきます。

【情報宣伝・収集活動】

・これまでの活動

自治会活動は、学生のよりよい学生生活の実現を目指して、学生全員で行うものです。しかし現在、アンケートの回収枚数や意見箱の利用状況を鑑みると、自治会活動への学生の関心は低いと言えます。このような現状を改善するために、自治会活動の情報宣伝を行い学生の関心を高めるとともに、意見箱の設置やアンケートの実施を通して学生が意見を発することができるようになりました。

これまで行ってきた情報宣伝活動として具体的には、学生自治会の活動に関する情報を掲載した冊子である自治会総合情報誌『NASCA』の配布や、立て看板の設置などがあります。その他、ビラの配布やポスターの掲示、B12棟学生会館1階掲示板の装飾や2階バルコニーの手すりへの横断幕の設置、B12棟学生会館前での昼の情報宣伝、ホームページの充実を行ってきました。

また学生が日頃抱く意見を集めるために、中百舌鳥キャンパスの構内2ヶ所とりんくうキャンパスの構内1ヶ所に意見箱を、ホームページに掲示板を設置しています。寄せられた意見は学生自治会で話し合い、自治会活動に反映させる、または大学や生活協同組合に伝えるなどしてきました。意見に対する学生自治会の回答は、意見箱横の掲示板への掲示、『NASCA』やホームページへの掲載を通じて学生に発信してきました。

・これからの活動

学生自治会は、学生とともによりよい学生生活を実現するという目的で活動しており、学生の立場から見た、よりよい大学を目指した活動をしなければなりません。そのためには、学生に大学や自治会活動について知り、それについて意見を発することのできる環境が必要です。しかし、“これまでの活動”で述べた通り、学生の自治会活動に対する関心の低下が起きていると考えられます。そこで、学生自治会は学生がより積極的に自治会活動について関心を抱き、自分が抱いている意見を発することができるように活動する必要があります。そこで、より多くの学生が興味を持って自治会活動に参加することができるように、現在の情報宣伝手段を包括的に見直し、改善あるいは新たな情報宣伝手段の開拓を検討します。

また、学生が日頃から抱いている意見を集めるために中百舌鳥キャンパス構内に2ヶ所、りんくうキャンパス構内に1ヶ所、意見箱を設置し、学生自治会のホームページに掲示板を開設しています。寄せられた意見は学生自治会で検討し、活動に反映させていきます。そして、それらの意見に対する学生自治会の回答は、意見箱付近に設置している掲示板に掲示し、『NASCA』やホームページに掲載して学生に伝えていきます。

【学生団体連絡会議】

・これまでの活動

本学に存在する 11 の学生団体は、学生団体間の情報交換や、単体の学生団体だけでは解決が困難な問題に対処するために、月に 1 度学生団体連絡会議を行ってきました。

昨年 10 月の学生団体連絡会議にて発足した第 28 回全学新歓実行委員会は、「新たに大阪府立大学に入学してくる学生が抱えている不安や疑問を解消し、新入生がより充実した大学生活を送れるようにサポートする」ことを目的に、講義紹介冊子を作成し、また新入生歓迎企画を実施しました。学生自治会は、活動場所として学生自治会室を提供し、また実行委員として学生自治会の役員が参加することで協力しました。

さらに、4 月の学生団体連絡会議にて、「学生や地域住民をはじめとした幅広い層が参加でき、皆が気軽に楽しめる夏祭りとする」を目的に、第 37 回七夕祭実行委員会が発足しました。

学生団体連絡会議の構成団体では、大学との意見交換を行うために月に一度学生センターとの話し合いを行ってきました。この話し合いでは、部局長連絡会議と教育研究会議の報告を通じて大学の状況を知ると共に、学生の意見を伝えてきました。

また、学生センターとの話し合いにて、4 月 6 日（火）の入学式終了後にクラブ紹介の新入生歓迎企画を実施することを提案されました。この企画は新入生の大学生活に対する期待を膨らませることができ、大変有益であると考え、クラブ紹介を行うことになりました。企画の実施に向けて、学生自治会、文化部連合、体育会が中心となって参加クラブや大学と調整を行いました。入学式は 4 月 6 日（火）に大阪国際会議場にて行われ、その後のクラブ紹介には 18 のクラブと多くの新入生が参加し、とても有意義なものとなりました。

・これからの活動

“これまでの活動”で述べた通り月に 1 度、学生団体連絡会議を行ってきました。今後も月に 1 度学生団体連絡会議を行い、学生団体間の情報交換を行うとともに、単独の団体では解決の困難な問題に対処していきます。

4 月の学生団体連絡会議にて、第 37 回七夕祭実行委員会が発足しました。実行委員会は 6 月 25 日（金）の七夕祭に向けて活動しています。学生自治会は、七夕祭が盛況な大学祭となるように、活動場所として学生自治会室を提供する、また実行委員として自治会役員が参加するなどの協力をしていきます。

また、今後も学生団体連絡会議の構成団体は、月に 1 度学生センターとの話し合いを行い、大学との意見・情報交換を行っていきます。有益な情報が得られた場合、『NASCA』やポスターなどを通じて学生に発信していきます。

【立て看板管理局】

・これまでの活動

中百舌鳥キャンパスでは多くの学生団体やクラブなどが、情報宣伝のために立て看板を用います。しかし立て看板は非常に大きいため、強風や不注意などによって倒れると重大な事故を引き起こす恐れがあります。そこで学生自治会は、友好祭実行委員会や白鷺祭実行委員会と共に立て看板管理局を設置しました。立て看板管理局は立て看板の利用団体にマニュアルを渡して注意を促す、また強風時に立て看板を倒すなどして、立て看板の安全な管理・運用に努めてきました。また、大学祭のステージで用いられるステージバックも、立て看板と併せて管理・運用を行ってきました。

毎年 3 月から 4 月にかけての新入生歓迎時期は多くのクラブやサークルが立て看板を利用するため、立て看板管理局では、立て看板を立てる位置を割り振る場所割会議を行いました。また、この時期にのみ立て看板を利用する団体が多い上、普段よりも多くの立て看板が立てられます。そのため、より一層の注意が必要となるため、場所割会議を利用して立て看板の利用団体に注意を促しました。

また、第 49 回友好祭本祭典には、立て看板の危険性を知らない一般の方々が多く来訪するため、通常より危険な状態になります。そこで、立て看板の周りに立ち入り禁止テープを張り、またフリーマーケットの出店者には立て看板の危険性を知らせるビラを配り、注意を促しました。

・これからの活動

“これまでの活動”で述べた通り、立て看板は扱い方を誤ると大変危険です。今後も立て看板管理局では、立て看板を貸し出す、強風時に立て看板を倒すなどして立て看板の日ごろの適切な管理・運用を行っていきます。また、大学祭のステージにて使用するステージバックも引き続き適切な管理・運用を行っていきます。また立て看板管理局では、管理団体内の立て看板やステージバックの管理意識を高めることを目的に講習会を開いていきます。そして、立て看板やステージバックが安全に利用されるよう、利用団体にマニュアルを渡し、取り扱いについてそのマニュアルを厳守するよう促していきます。それでも取り扱い方法を守らない団体が存在した場合は、その団体に立て看板の使用停止を通知するなど厳粛な対応を行います。

また、白鷺祭本祭典中は立て看板やステージバックの危険性を知らない外部の人が多数訪れます。そこで、立て看板、ステージバックの見回りを行う、立て看板に近づけないように周りをテープで囲うなどして、立て看板やステージバックの安全な管理・運用に努めていきます。

【大型 PA 再購入実行委員会】

・これまでの活動

大型 PA 再購入実行委員会は大型音響機器（以下、大型 PA）を再購入することでクラブやサークルなどの課外活動を充実させ、大学内の文化的発展に寄与することを目的に活動している団体です。大型 PA 再購入実行委員会は、学生自治会・友好祭実行委員会・白鷺祭実行委員会・生活協同組合・白鷺音響企画共同体 S. T. A. F. -1・体育会・文化部連合の 7 団体で構成されます。今までに購入してきた大型 PA は白鷺音響企画共同体 S. T. A. F. -1 が代表して所有し、管理・運用を行っています。

大型 PA 再購入実行委員会では、今年度の第 3 期再購入に向けて月に 1 度定例会を行い、購入する機器の選定を進めてきました。

・これからの活動

大型 PA 再購入実行委員会は、7 月の総会で購入する機器を決定し、8 月に第 3 期再購入を行います。また老朽化により廃棄することになった機器に関しては、学内の学生団体からの希望により譲渡される予定です。加えて、これまでと同様に月に 1 度定例会を開き、第 4 期再購入に向けて話し合いを行っていきます。また、第 4 期再購入までに機器が故障した際には、大型 PA 再購入実行委員会の積立金から修理費を支出する、または後援会に援助を求めるなど、柔軟かつ早急に対策を講じます。

【ステージ管理委員会】

・これまでの活動

中百舌鳥キャンパスでは、大学祭の企画や昼休憩時のクラブ・サークル活動のためにステージが頻繁に用いられており、ステージは学生が課外活動を行う上で重要なものであると言えます。しかし、現在 3 台あるステージはどれも老朽化が進んでおり、新たにステージを購入する必要があります。また無断でステージに上る学生や、ブルーシートをかけずに雨ざらしにする利用団体などが存在し、ステージの管理・運用方法を今一度検討する必要性がありました。そこで学生自治会・友好祭実行委員会・白鷺祭実行委員会の 3 団体でステージ管理委員会を設置し、ステージの補修や購入を検討するとともに、クラブやサークルが安全に利用できるようにステージの管理・運用を行っていくことになりました。

ステージの購入時期を検討するにあたって、老朽化の進行具合や使用頻度を考慮した結果、今年度の夏季にステージを購入することにしました。

・これからの活動

ステージ管理委員会は、7 月の総会で購入するステージを決定し、夏季にステージの購入を行います。また、ステージの管理はステージ管理委員会内に設置されているステージ管理局が責任を持って行います。そのために、今までの管理方法の見直しを行い、新たに管理マニュアルを作成し、ステージの適切な管理を行っていきます。また、現状としてステージがぞんざいに扱われているため、ステージを正しく使用しなかった、もしくは故意に破損させた場合には罰則を科し、そのようなことが繰り返されないように努めます。そして今後は月に 1 度定例会を行い、ステージの現状を確認する、第 2 期再購入に向けての話し合いなどを行っていきます。

【工学部教員紹介冊子】

・これまでの活動

学生自治会は、「冊子を通じて工学部の学生に教員を紹介し、親しみを持ってもらう。また研究室に興味を持ってもらうことで気軽に研究室を訪れ、日頃から抱く意見を教員に直接伝えられるようにする」ことを目的に工学部教員紹介冊子を作成してきました。

一部の学科では紹介冊子を作成し、1回生から3回生を対象に配布しました。また今後の活動の参考にするために、冊子と併せて紹介冊子に関するアンケートを実施しました。アンケートには「顔写真が載っていない先生がいらっしまったので見たかったです」のように、冊子の不足点を指摘する声もありましたが、「大学の先生は話しかけにくいイメージでしたが、いい先生が多いとわかったこと」のように、冊子が役に立ったという声も多くあり、当初の目的に対して一定の成果が得られました。

しかし一部の学科においては、既に学生に研究室や教員を紹介する機会を設けているといった理由により、教員の協力を得ることができず、冊子を作成することができませんでした。その現状を踏まえて、このような学科では冊子を作成することが難しいと判断し、作成しませんでした。

3. おわりに

今回の大学改革では大学に軽視されていますが、学生も教職員とともに大学の重要な構成員であり、その運営に関して意見を発していく権利を持ち、それは同時に私たちの義務でもあります。とはいえ、学生一人一人の声でできることは、とても限られています。しかし、全員で声を合わせて意見していくことで、一人では実現できなかったことも可能になってきます。すなわち、学生全員でよりよい学生生活を目指して活動を行っていくことは学生自治活動の基本なのです。これからも積極的に意見を発し、学生自治会とともに活動していきましょう。